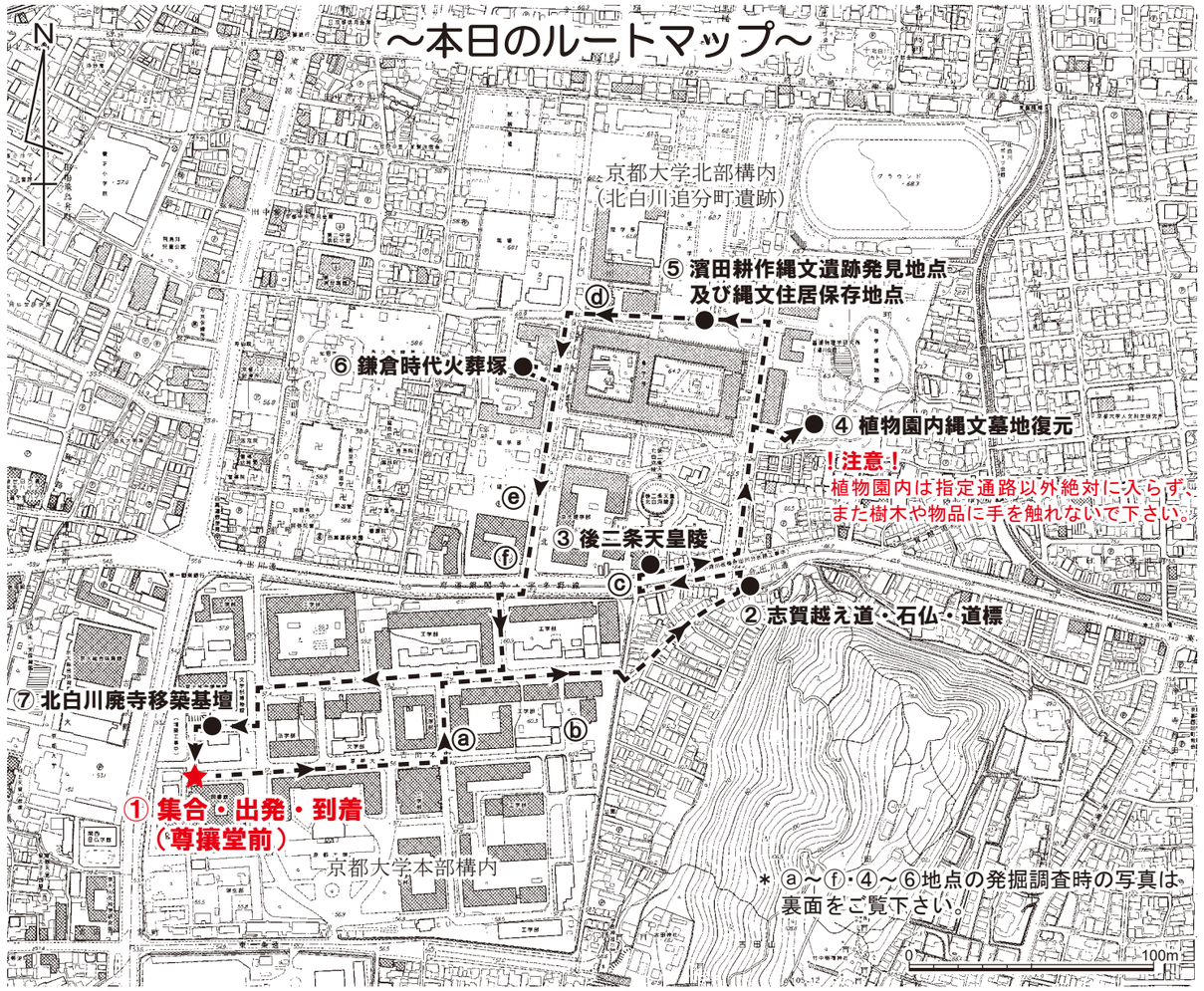
第３回史跡ウォーク

京都大学構内の遺跡をめぐる

2018年３月10日（土）

京都市考古資料館
京都大学総合博物館
京都大学文化財総合研究センター
（公財）京都市埋蔵文化財研究所



① 尊攘堂　尊攘堂の名は、子爵品川弥二郎が吉田松陰の遺志をくんで明治20年（1887）に高倉通錦小路に創設し、維新における尊攘の功ある人々を記念したものに由来する。現在の建物は、品川の死後、京都帝国大学に寄贈された松陰の遺墨類をおさめるため、明治36年（1903）に建てられた。外装を化粧した煉瓦造平屋建・寄せ棟屋根の擬洋風建築で、平成10年（1998）に国の登録有形文化財として登録された。現在は文化財総合研究センターの資料室として、構内遺跡出土資料の保管・展示に利用している。通常非公開で、希望者は事前に文化財総合研究センター事務室まで問い合わせをされたい。なお品川弥二郎の寄贈資料は、現在は維新特別資料として京都大学附属図書館に収蔵されている。

② 志賀越え道・石仏・道標（京都市登録史跡）　京都大学の本部構内は、現在「志賀越え道」「山中越え」などと呼ばれている京の荒神口から近江へ抜ける交通路、「白川道」の上に位置している。構内では、幕末に尾張藩邸の敷地となって廃絶するまでの路面の遺構が、13世紀初頭にさかのぼる段階まで確認されている。大学敷地外に今も残されている北東方向へと向かう道筋には、中世にさかのぼる石仏や近世の道標などがあり、かつての街道の様子をしのばせる。

③ 後二条天皇陵　後二条天皇（第94代・在位1301～08年）は延慶元年（1308）８月25日に崩じて北白川殿に葬られたとされる。江戸時代にこの地に比定されるが、当時は泓塚（ふけづか）・福塚（ふくづか）と呼ばれる円墳状の塚であった。古墳時代の古墳の可能性を指摘する意見もある。西南にも小さな塚があり、後二条帝の皇子邦良親王墓に比定されている。

④ 植物園内縄文墓地復元　1973～74年にかけての発掘で、縄文後期前葉の配石９基と土器棺７基が、南北17m東西14mの狭い範囲内で見つかっている。配石は、人頭大の自然石20～30個を円形ないし楕円形に密集させるものと、10数個の自然石を不定形に敷きつめたものとに大別される。

甕を埋納したものや土坑を有するもののほか、骨片が検出されたものも存在する。縄文時代墓地の様子がわかる遺跡としてきわめて貴重な事例であり、遺構を移築復原した。配石は発掘で出土した石をそのまま用い、土器棺はレプリカを樹脂で固定した。植物園内の自然のなかにひっそりとたたずむ復元墓地は、照葉樹林に覆われていたであろう縄文時代の景観を彷彿とさせる。

⑤ 濱田耕作縄文遺跡発見地点及び縄文住居保存地点　京都大学考古学講座の初代教授である濱田耕作が、北白川追分町のこの地で大正12年（1923）に散策中に磨製石斧を採集し、すぐに試掘調査がおこなわれた。その際は明確な遺跡確認には至らなかったが、その後の調査研究の端緒となる学史的に記念すべき発見地点である。

濱田の発見から59年後の1982年、その南側に隣接する地点で、方形の石組炉を中心に一辺約５ｍの隅丸方形状の溝がめぐる縄文中期末の竪穴住居が見つかった。当時の住居の構造を知ることのできる貴重な事例であり、埋め戻し保存するとともに現地表にブロックで位置を示している。北側より一段高まった尾根状の場所であり、微高地上に集落を営んでいたこともよく感じられる空間となっている。

⑥ 鎌倉時代火葬塚（京都市登録史跡）　1978年の発掘調査で、正方形の二重の溝で囲まれた中世初頭の墓が見つかり、古代～中世の皇族の葬送記事にみるような、火葬所跡地に塚を築いた火葬塚の遺構と判断された。きわめて貴重な事例であるため、校舎の建築計画を変更して遺構をそのまま保存するとともに、本来はあったと想定されるマウンドとともに復元している。

⑦ 北白川廃寺移築基壇　北白川廃寺は、昭和９年（1934）、土地区画整理が進行中であった北白川上終町において、瓦積基壇と古瓦が発見されたことを契機とする発掘調査で存在が明らかとなった。出土した軒瓦からみて創建は７世紀後半にさかのぼる。また、瓦積基壇は寺院の中心施設である金堂であり、同時代の寺院としては最大級の東西36m×南北23mをはかる。出土遺物は現在京都大学総合博物館に収蔵され、瓦積基壇の一部も、文学部陳列館（発掘当時は資料の収蔵・展示施設であった）南側に移築された。工事で消滅することになる遺構の移築保存としては最初期の先駆的な事例である。

京都大学構内の遺跡をめぐる・参考資料

ⓐ 近世白川道の路面遺構（東から）

本部構内AW27区（1987年度調査）

ⓑ 中世後半期白川道の路面遺構（東から）

本部構内AX30区（1986年度調査）

ⓒ 今出川通内における発掘調査
（（財）京都市埋蔵文化財研究所・1995年度調査）
※ 縄文後期～弥生前期の土器棺が出土している。

調査地の全景（西から）

弥生前期の甕棺墓（南西から）

〈参考〉近世絵図にみる北白川の石仏と福塚

拾遺都名所図絵「北白川の石仏」
天明７年（1787）刊
国際日本文化研究センター所蔵
（画像データベースより）

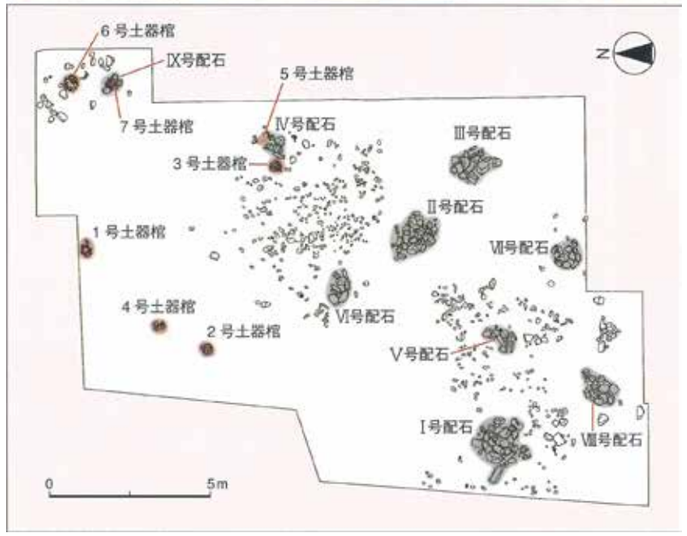
ⓕ 幕末期土佐藩邸堀調査風景（西から）

北部構内BA28区（1992年度調査）

ⓔ 弥生前期の水田遺構（東から）

北部構内BC28区（2000年度調査）

ⓓ 上層：弥生中期の方形周溝墓（東から）

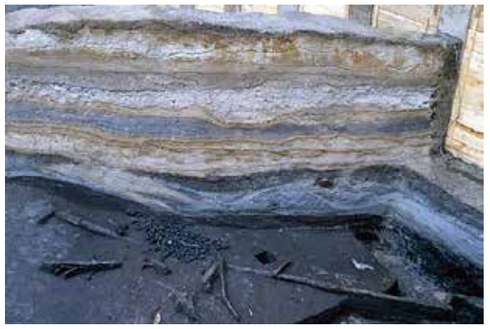


北部構内BD35区（1973・74年度調査）
千葉豊『京都盆地の縄文世界・北白川遺跡群』新泉社、2012年より

⑤ 縄文中期末の竪穴住居跡（南東から）

北部構内BF33区（1982年度調査）

ⓓ 下層：縄文晩期の層位とトチノキの実出土状況（南から）



いずれも北部構内BF34区（1994年度調査）

⑥ 鎌倉時代の火葬塚検出状況（西から）

北部構内BE29区（1978年度調査）